

2013年7月29日

Press Release

プリンシパル・グローバル・インベスターズ株式会社

資産運用ビジネスに関する最新調査報告書発表

さまざまな政策決定がグローバル市場を動かす要因に
～投資家は金利抑制策に懸念を持っており、資産運用会社に対し深い知識と適切な
アドバイスを求めている～

調査結果では、66%を超える投資家が資産運用会社に債務ダイナミクスと
そこに隠れたリスクやチャンスについてより深い理解を求めると回答

2013年6月17日 英国ロンドン発 - 米資産運用会社、プリンシパル・グローバル・インベスターズ社と、英調査機関 CREATE-Research社は今年で5回目となる共同の年次調査報告書を発表しました。これによると、62%の回答者が今後3年間で中央銀行の政策決定がグローバル市場を動かす主要な要因となると感じていることが明らかになりました。

本報告書の中では、金利抑制策に対する投資家の懸念についても取り上げています。これは中央銀行が長期にわたって人為的に低金利を維持し、政府の債務調達を助けようとする場合に生じる現象で、アセット・アロケーションの決定を歪める原因となります。

本報告書では「債務に煽られた世界における投資」(Investing In A Debt-Fuelled World)と題され、超低金利や不確実性、また方向性を見失った投資家で特徴づけられたグローバル市場の課題について議論しています。

CREATE-Research社の最高責任者で、本報告書の著者であるアミン・ラジャン教授は次のように述べています。「今後は経済より政治が市場を動かしていくと思われます。投資家の投資目標はこれまでのように市場を上回るリターンではなく、それぞれの投資家が抱える固有のニーズに対する解決方法(ソリューション)に対して超過収益(アルファ)を上げることが目標となるでしょう。超過収益(アルファ)の基準は人によって異なります。」また、「資産運用会社は投資家に何を期待されているかを把握する必要があります。61%の調査回答者が資産運用会社に対し、リターンについて非現実的な主張を避けてほしいと望んでいます。また55%の調査回答者が投資家の期待がより効率的に管理されることを求めています。」とも述べています。

この調査報告書は、世界29カ国の700を超える資産運用会社、年金プラン、年金運用コンサルタント、ファンド販売会社およびファンド管理会社を対象に行われた調査に基づいたもので、調査対象となった運用資産規模は、計27.4兆米ドルにのぼります。

今回の報告書は、こうした状況を理解する上で有益な情報および見識をご提供しております。

【主な調査結果】

- ◆ 3分の2以上の投資家が資産運用会社に最も期待するものとして、債務ダイナミクスとは何かとそこに隠れた落とし穴やチャンスについてより深い理解を求めると回答。
- ◆ 49%の回答者が、資産配分や資産運用会社の選定、また、投資オプションに対する統合的なソリューションを求めていると回答。
- ◆ リスクを個人に転嫁する為に、既存の年金プランの良い所と新しいイノベーションを統合する形でのDCへのパラレルシフト。現在DCは、グローバルの年金資産全体の43%を占めるが、2020年には60%を超える見込み。
- ◆ DCへの移行はアセット・アロケーション戦略における実物資産への移行を促したが、この点が2012年の年次調査報告以降最大にして唯一の変化。
- ◆ 45%の調査回答者が、今後3年間でDC加入者はダイナミックなアセット・アロケーション戦略を追求するであろうと回答。また、62%のDC加入者は自分たちとしては安定したバランス型/マルチ・アセット・クラス型ファンドを選択することが明らかに。
- ◆ DC加入者は、2008年の金融危機の遺産として市場を上回るリターンの獲得と、自分たちのニーズに合致していることを区別していく傾向。
- ◆ DC加入者は引き続きリターン追求を目的とする分散投資戦略から離れ、結果重視の投資に向かう傾向。

【日本市場の主な特徴と動向】

- ◆ 日本では、DBが大部分を占めているが、積立水準が低いいため年金給付に応じることが難しくなっており、縮小に向かっている。今後慎重な投資姿勢を強め、引き続き年金債務よりも年金資産をベンチマークとすると思われる。
- ◆ 世界的に見ても公的年金はいずれも窮地に陥り、市場ベースの割引率で将来の年金債務を計算せざるを得なくなり、すでに日本では現実化し、結果重視の負債管理型投資(LDI)も広まっている。
- ◆ 日本では高齢化と時価評価ルールが相まって民間セクターのDBプランの廃止とDCプランの成長に拍車を掛けている。
- ◆ アジアでは利回りの追求が激しくなり、中国の「影の銀行」(シャドー・バンキング)による「理財」商品や「信託」商品に代表されるような、高リスクでよくわからない商品に投資資金が流入するが、日本は別で、1989年のバブルの崩壊で多額の損失を被った記憶が個人投資家の頭にしっかりと刻みこまれているため、今後も定期預金への投資が続くとみられる。

今回の調査結果を踏まえてプリンシパル・グローバル・インベスターズ社の日本法人、プリンシパル・グローバル・インベスターズ株式会社代表取締役社長板垣均は次のように述べています。「金融危機以降、グローバル金融システムのパラダイムシフトが進行している中、市場の参加者は今もなお方向感を見定めるため暗中模索を繰り返しています。連鎖的に発生してきた金融市場の混乱から潜在リスクに対する懸念が拭いきれず、また一方で債務軽減のために繰り返された量的緩和の予期せぬ影響により政策に対する信頼も確立されないままです。アベノミクスに対しても慎重な見方が続く中その景気回復効果が試されています。今回の

報告書は、こうした環境的要素を鑑み、個々の投資家のニーズを満たすべく新たなイノベーションの創出に挑戦し続け、付加価値を高めるソリューションを提供することこそ資産運用会社にとって喫緊の課題であると提言しています。弊社はこれまでお客様とのパートナーシップを通してカスタマイズされたソリューションをご提供してまいりましたが、これはブティック戦略という形で弊社の強みともなっております。今後も商品・サービスの「アルファ」とは何かを問い続け、長期にわたり信頼される資産運用会社を目指して日々変容する時代と共に研鑽を続けてまいりたいと思います。」

#####

本調査報告書には日本語版もございますが、あくまで参考訳であることをあらかじめご了承ください。日本語版は、プリンシパル・グローバル・インベスターズ株式会社の[ホームページ](http://www.principalglobal.com/)でもご覧頂けます。内容の厳密な理解にあたっては、原文(英文)をご参照ください。下記 URL の原文が正式文書です。

<http://create.principalglobal.com/>

また、当レポートの英語原文は CREATE-Research 社のホームページでも個人情報の入力によりダウンロード可能です。 <http://www.create-research.co.uk>

CREATE-Research について

CREATE-Researchは、グローバルな資産運用における戦略変化や新たなビジネスモデルを専門とする独立系シンクタンクで、著名な金融機関やグローバル企業が託す重要研究課題に取り組んでいます。CREATE-Researchは、欧米諸国の信頼できる組織で決定権を持つ幹部の人々に向けての助言や研究活動も行っており、その内容は話題性のあるレポートやメディア注目度の高いイベントを通じて広く認知されています。より詳しい情報については、<http://www.create-research.co.uk>をご覧ください。

プリンシパル・グローバル・インベスターズについて

プリンシパル・グローバル・インベスターズは、プリンシパル・ファイナンシャル・グループ^{®1}の資産運用部門です。プリンシパル・グローバル・インベスターズは、株式、債券、不動産の3つの異なるアセットクラスの金融商品に加え、投資一任契約および投資顧問契約に基づく専門性の高い運用サービスを、世界の年金基金、機関投資家等のお客様に提供しています。プリンシパル・グローバル・インベスターズの運用資産総額は、2013年6月末現在、2,891億米ドル(約29兆円²)にのびます。より詳しい情報については、<http://www.principalglobal.jp/> (日本語)、または <http://www.principalglobal.com/> (英語)をご覧ください。

- 1: 「The Principal Financial Group[®]」および「The Principal[®]」は、プリンシパル・ファイナンシャル・グループのメンバーであるプリンシパル・ファイナンシャル・サービスズ・インクの登録商標です。
- 2: 1米ドル=99.335円で換算。

プリンシパル・グローバル・インベスターズ株式会社

住所: 〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー17階

電話: 03-3519-7880(代表) ファックス: 03-3519-6410

代表者: 代表取締役社長 板垣 均

ホームページ: <http://www.principalglobal.jp>

金融商品取引業者登録番号: 関東財務局長(金商)第462号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号: 第011-01627号